

くれよんだより

今年があっという間に梅雨が明け、いよいよ夏本番です！
今、クリニックと病児保育室の笹飾りには、子どもたちの
かわいい願い事が書かれた短冊も揺れています。
暑～い！けど楽しい夏！！ご家族みんなで元気に乗り切って、
心に残る思い出がたくさんできるといいですね。



子どもの三大夏風邪について

*手足口病

- ・4歳くらいまでの乳幼児を中心に流行します
- ・口の中や手足に水ぶくれのような発疹が出るのが特徴です
- ・お尻や臀部、膝周り、顔に発疹があらわれる子もいます
- ・38℃程度の熱が数日続くこともあります



*ヘルパンギーナ

- ・5歳以下のお子さんの感染が最も多いといわれています
- ・突然38℃～39℃の高熱が出て1～3日続きます
- ・喉や口の中に水ぶくれのような発疹でき、数日経つと水疱がつぶれて痛みを伴うため、食べたり飲んだりができにくくなります

*咽頭結膜熱（プール熱）

- ・幼児期から学童期の子どもに多く発症します
- ・高熱と咽頭炎、結膜炎が特徴です
- ・保育園や幼稚園、学校への登園・登校は症状が消失した後2日は停止となります

【治療法】 熱がある場合は、解熱剤を使用するなど、つらい症状を和らげる対症療法をしながら、症状が治まるまで安静にし、栄養や水分、十分な睡眠をとりながら回復を待ちましょう。

あせもの予防ポイント

あせものは新生児期や乳幼児期から発症することがあり、特に汗をかく夏は注意が必要です。



- ① 吸湿性、通気性の良い衣類を選ぶ
- ② こまめに濡れたタオルでふき取る
- ③ エアコンを使い快適な室温にする
- ④ 保湿ケアで汗のダメージから守る

とびひについて

とびひは虫刺されや、あせもなどを掻いたり、ケガでできた傷口から細菌が感染することで発症します。

汗のかきやすい子どもの発症が多く、掻きむしることで全身に症状が広がりやすいのが特徴です。少しでも水ぶくれを発見したらすぐに受診しましょう。

抗生剤の飲み薬や塗り薬が処方されます。

- ① 肌を清潔に保つ
- ② 快適な環境で過ごす
- ③ 患部をガーゼや包帯で覆う



こまめな手洗いや、爪も短くしておきましょう！



病児保育室からのお知らせ



これまで、利用できる年齢が、生後6か月～小学3年生までとなっていましたが、令和4年4月より、生後6か月～小学6年生までに拡大しています。



小学生が遊べるボードゲームも多数ありますので楽しめますよ！



保育士と一緒に
ゆったりと
すごしましょう♪



お問い合わせはこちらまで
病児保育室くれよん
電話 0893-57-9377
ホームページ
<https://okubo-kc.jp/childcare/>